

小樽の除雪を学ぶ

～韓国ソウルより小樽を訪問～

3月23日、韓国ソウルの消防防災庁と地方の関係職員計15名が小樽道路事務所を訪れました。

ソウルは元来は降雪量の少ない地域ですが、近年の異常気象により、2010年には41年ぶりという豪雪に見舞われ交通機関はまひ状態となりました。その苦い経験から、先進国の除雪対応システムを学ぼうと、今回の小樽道路事務所訪問となりました。

事務所会議室では、北海道における除雪体制や大雪に関する取り組み等についてDVDを使った座学を行いました。新雪除雪や拡幅除雪の施工方法や運搬排雪、凍結防止剤の散布等について、実際の映像を交えた説明があり、韓国の方達は熱心にメモを取りながら受講していました。また、大雪の際の関係機関との連携強化についての説明もありました。

事務所での座学風景





座学の後、実際の除雪作業を見学するため、市内の作業場までバスで移動しましたが、バス内でも除雪に関する多くの質問がありました。

バス内で除雪に関する質問をする韓国の方達



質問に答える小樽開発建設部職員

バス内で、「凍結防止剤は道路にどのようにして播くのか。またそれは街路樹に影響はないのか。」「市内でロードヒーティングしている箇所は何カ所か。」「年間どれくらいの除雪費がかかるのか。」といった質問が次々とされ、当部職員がそれに答えている間に、除雪作業現場に到着。

実際にロータリー除雪車を使った除雪作業や、凍結防止剤の散布車による塩化ナトリウムの散布作業を見学しました。



ロータリー除雪車の作業を見学



凍結防止剤の散布を見学



除雪現場でも当部職員を取り囲んで質問

除雪車の前で記念撮影



限られた時間の中で、除雪のノウハウを習得しようと、みなさん真剣に作業の様子を見学していました。
この後、一行は札幌市建設局の雪対策室に向かうため、小樽を後にしました。